

第2回第3次射水市中小企業振興計画検討委員会 会議概要

1 日 時 令和5年10月31日(火) 午前10時

2 場 所 射水市役所大島分庁舎 3階大会議室

3 出席者

(委員)

八嶋 祐太郎 (射水商工会議所 副会頭)

小杉 奈津子 (射水商工会議所 女性会会長)

若林 啓一 (射水市商工会 副会長)

橋本 雅文 (アイシン軽金属 執行幹部)

田仲 聡 (射水青年会議所 アカデミー特別委員会 特別委員長)

宮田 雅人 (射水市地域振興会連合会 会長)

成瀬 敬雄 (連合富山射水地区協議会 副議長)

加藤 健 (富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター 次長)

浦嶋 竜也 (高岡公共職業安定所 所長)

亘 建邦 (北陸銀行小杉支店 支店長)

中村 和之 (富山大学学術研究部社会科学系 教授)

加藤 賢一 (富山県立大学地域連携センター 産学官コーディネーター)

小竹 信成 (射水市中学校長会 会長 (射北中学校長))

(欠席)

八箇 かの子 (射水市商工会 女性部長)

和田 美樹 (和田貿易運送株式会社 代表取締役)

長慶 清 (新湊信用金庫 本店営業部長)

小林 正良 (日本政策金融公庫 高岡支店長)

(事務局)

産業経済部長 塩谷 明永

産業経済部次長 福井 有希夫

産業経済部次長 作道 賢次

商工企業立地課長 盛光 寛人

商工企業立地課商工労政係長 奥井 栄作

商工企業立地課主査 松下 優子

商工企業立地課主事 杉森 慶子

射水商工会議所事務局長 向田 真理

射水市商工会事務局長 篠田 千春

4 会議概要

(1) 開会

(2) あいさつ

委員長 お忙しいところ出席いただきありがとうございます。本計画は去る8月1日に第1回委員会を開催し、骨格について皆様から闊達なご意見をいただきました。本日は市民アンケート、企業へのヒアリングを踏まえ、事務局で素案を作成いただきました。素案をもとに、活発なご議論をいただき、より有意義なものを作っていきたい。また、本日の会議を経てひとまずの案を作成したものを、パブリックコメントを行うことになっており、大事な委員会である。いつものように忌憚のないご意見を願います。

事務局 協議事項に入る前に、委員の選任についてお知らせする。本計画の策定にあたり、射水市中小企業・小規模企業振興会議委員の皆様で構成している策定委員に加え、より広い視点から意見を取り入れることを目的とし、若手経営者の皆様に協力いただいた。射水青年会議所の田仲聡様である。(自己紹介)和田貿易運送株式会社代表取締役の和田美樹様にもお願いしているが、所用で欠席である。本日は、その他欠席委員が4名、委員17名中13名の出席となっている。

(3) 協議事項

【第3次射水市中小企業振興計画素案について(資料1)】

事務局 説明

委員長 各種アンケートの結果を報告いただいた。多数アンケートを精力的に行っていただき、射水市の中小企業が抱えている問題もだんだん明確になってきたと思う。それを踏まえて計画の第3章であるが、前段の方向性を示している。第4章で具体的な施策について記載をしている。第5章、第6章ではどう担保するのか、役割の分担や進捗管理を書いている。

まずは将来像を考えたいということで、事務局より3つのうち案②が良いのではないかと提案をいただいている。本日これを決めるということなので、案②を軸にしてご意見をいただきたい。

委員 案②の「izm」の綴りは何か意識されて「z」なのか。個人的には「s」ではないかと思う。

事務局 これは射水の「ズ」で「z」にしている。射水と掛け合わせる意味で文字合わせとして「z」にしている。

委員 皆さんの気持ちが見る側に伝わればよいが、射水の「z」かと想像はするものの、綴りが違っていると若い方や勉強している学生には捉えられて、難しいのではないか。

委員長 確かに言葉通りにすると「s」だが、「s」にするとなぜわざわざ「ism」とアルファベット表記にしているかが伝わりにくい。これはアルファベット抜きではいけないか。

事務局 確かにそうだ。

委員 「イミズイズム」は、やわらかいニュアンスで良いのではないか。私は「MOVE&TRY」、「チャレンジ」、こういうスローガンは若い人に合わせてよいと思っている。私たちは、気持ちはあるが体がついていかない。経験は多少若い人にアドバイスするが、時代の流れが早く、思わぬことが起きる大変な時代になっている。平和な日本にいて、いい国だと思っているが、経済を良くして、産業の活性化を行い、若い人を奮い立たせる意味でも、射水むずむず、でいいのではないか。

委員長 ありがとう。他にいかがか。

委員 青年会議所で事業をする際に、事業名やスローガンを考えるが、今青年会議所は20周年を迎え、30周年に向けた10年ビジョンを作っている。若者を中心に、10年先のどんな射水を目指したいかを出し合っている。そこではよく共創というキーワードが出ている。企業だけでなく、まちの人と一緒に作らねばならない、そんな思いで共創というワードが出ている。協奏曲のような楽しいイメージもあれば産業の競争力の意味もあり、いいワードだと思う。中小企業とまちの一体感があればいいと思った。案②は、個人的には中小企業が引っ張るということが感じられない。案①の方が経済というキーワードもあり、

市民に分かりやすいのではないかと感じた。

委員長 委員のご指摘のように、中小企業の将来像であるともう少し中小企業カラーがあってもよいというご意見である。まぐらの部分として、今では「時代に挑む力、共に未来を創る力」ということで、共創というところは後段に若干織り込まれているが、ここに何かしら中小企業の描く将来像だと分かるものがあったらいいのかもしれない。私個人の感想である。

委員 案②のタイトルについて、先ほど事務局はまちを中小企業という言葉に置き換える考えもあるとおっしゃった。私は、企業はまちに存在するわけだから、企業もまちも一緒に飛躍するという意味で、まちでもいいと思う。しかしまちという言葉がピンボケするので迷うところだ。

「izm(イズム)」については横文字を使わずとも、カタカナでいいと思った。

委員長 最終的に中小企業の皆様にまちの飛躍をリードする存在になってほしいという理念だと思うので、ここを変えるのではなく、枕言葉を変えればいいのかと思う。

私も「イズム」はアルファベットはいらないと思う。カタカナだけで十分伝わると思う。射水で培ってこられた風土や経済の特性を射水イズムという言葉で反映させるということの良いのではないかと。本日この場で文言を詰めるのは難しいと思うが、アルファベットはいらないということによいか。まちの飛躍はあってもよい。時代に挑む力、共に未来を創る力というところに中小企業らしさ、中小企業の将来像を描いていることが分かる形にする方向でどうか。また、共創が大事だというご提案をいただいたので、ともに未来を作るという言葉、あるいは共創という言葉を使うなどを軸にして事務局で改めて考えるということによいか。委員長・副委員長で見せていただいて意見を言わせていただき、最終案とする方向で良いか。

事務局 はい。貴重なご意見を参考に修正を検討する。

委員長 引き続き、事務局より資料1の説明をお願いします。

- 事務局 説明
「第3章 中小企業振興のために目指す方向性」
「第4章 基本方針・施策・具体的な取組」
- 委員長 今回の素案の軸となる部分、第3章、第4章について説明をいただいた。残りの時間で忌憚のない意見を聞かせていただきたい。
- 委員 2点、意見を若者目線で発言させていただく。私は個人として司法書士と行政書士をやっており、創業支援をしている。若い人で商工会に入っている方の手伝いをしているが、創業するのは大事なことだがその後の伴走、永続的に会社を続ける支援をぜひお願いしたい。私も開業して10年を迎える。10年継続する企業は創業した企業のうち約6%である。年月が経つともっと低くなる。実際に私も同じ時期に開業した企業に声をかけると、もう畳んだという声があるなど、6%は本当だと実感している。若者の創業支援はよいが、伴走、人材育成をぜひお願いしたい。
- 射水の青年会議所を紹介すると、20代から40代の青年で、創業者や後継者を対象としたメンバーで構成されている。自分たちのためになる団体であるので、今年は会員拡大を考えている。まさに創業支援や人材育成にはもってこいの団体だと思うのでぜひそういうことがあれば参加することもできると思う。
- もう一点、SNSの発信について提案させていただきたい。富山県の青年議会にも参画し、そこでも提案している議題がある。富大、県立大、専門学校と若い女性が多く、情報発信をメインに議論しているのだが、若い人のSNS発信は、Instagramでいろんな情報を出している。実際富山県もやっているが登録者数が8,000人しかおらず、人口比率からするとほとんど利用されていない。富山の遊び場という一般の情報発信している方の登録者数は5万人ほどで、全く発信力が違う。発信は影響力のある人に任せの方が良いという話をしていた中で、若い人の意見として若者に発信を任せの方が若者に届くという話があった。SNSを活用した企業の情報発信についても、若い人が発信すれば若い人が情報をキャッチし、若い人の創業に繋がる

と考える。若い人を活用するアイデアもぜひ検討いただきたい。そういう意味で射水市青年会議所も手伝いができると考えている。

委員長 2点ご意見をいただいた。創業支援はもちろんだがその後の伴走型の支援もお願いしたいということだ。おそらく経産省も音頭をとり、商工会議所と連携し、伴走型支援のプログラムを組んでいたと思う。商工会議所も青年会議所でも、もちろん伴走型の支援ができる場があると思う。その中で射水市として何ができるのか、しっかり考えていただきたいと思う。

また、SNSの発信はInstagramだそうだ。そのあたりを理解し、インフルエンサーの人を使うのもいいと思う。少しお金がかかるので、そのあたりは個別の話になるのでしっかり考えていただきたい。他にいかがか。

委員 全体を通して、女性の立場から気がついたことをお話させていただく。施策の中でたびたび女性という言葉が出てくるが、流行語のような感じがしてならない。女性活躍の推進、女性の人材育成事業、冠に女性をつけることに私としては違和感がある。加えて、素案の28ページ重点施策2に、「女性を含めあらゆる人が」という文言を、若い女性従業員に違和感がないか尋ねたところ、何故、女性という言葉をややわざと入れないといけなかったのかという話をされた。私も同感だ。多様な働き方、生き方がある中で大切なのは、女性を特別視し、特別扱いするのではなく、男性女性が分け隔てなく全ての人が働き甲斐のある環境を作ることだと思う。例えば、男性の育児休暇取得率向上も、個人的には、高ければ女性の働きやすさの指数になるとは思っていない。特に地方では女性の実家に頼る方が多い人や、所得が減るくらいならワンオペで対応するという人もいるし、そもそも男性が休暇を取って家にいることで更に手間がかかるという家もあるかもしれない。それぞれ事情があるので、その数字がいい環境ということではなく、数字で見るとなれば、希望通りに育休を取れたかどうかということに限ると思う。加えて、女性役員の比率を上げることをよく聞くが、比率を上げるためだけに女性を起用し、女性だから昇進できないのは問題外だが、女性だから起用するというのも、もとはと言え

ば女性軽視に感じる方もいる。男性の機会を奪うことにもなりかねない。大切なのは全ての方が公平に様々な機会を与えられ、平等に評価されることだと思う。女性だから何かをしてもらうのではなく、女性だからできないことをなくしてあげて、男性ももちろん一緒に成長し働きやすい環境と考えれば、公平性が大切なキーワードになってくると考えている。またそのあたりも念頭に考えていただきたい。

委員長 男女問わず、必要な取組はしっかり書いていただき、実態として男女間で何かしらの差異が生じている場合は、それをフラットな形にできるように、敢えて女性という言葉がつくものもあるかもしれないが、基本的に男女問わず、あるいは自由な選択を妨げないというところを目線にして書いていただきたいというご意見であった。いくつか検討するポイントはあると思うので改めて検討をお願いします。他にいかがか。

委員 人材育成がクローズアップされており、国の施策として人材確保は重要な施策であるが、令和4年度あたりから完全に人材育成に重点施策がシフトしている。国ではなかなか雇用の創出ができず、企業に在職している人材への人への投資で、いわゆる人材育成に対する助成制度を強く打ち出している。県ではリカレントの助成やリスクリングの補助金を創設し、市でもそのような支援の仕方もあるかと思う。国の助成金制度の活用も周知がうまくいっていないようなので、企業が集まる機会を捉え、ハローワークで支援する方法もあるかと思う。

委員長 せっかくの助成金や支援プログラムも十分活用できていないことが今回アンケートとして分かった。どういう形で周知が図れるか。おそらく、成功事例があれば集まりやすいと思う。射水市としてやればいいのか、商工団体を通じて周知を図ればいいのか、具体について詰めていただければと思う。

委員 計画の40ページ⑥に「市民の理解と協力」という柱があるが、全体を通してこの記述が少し足りないと思う。要するに企業はまちの中にある。まちの中にある企業と住民にはどのような接点があるのか。中小企業の皆さんの将来にも関わって

と思う。我々の地域では企業の皆さんと交流の機会を持っている。企業の内容が分かり良かったという感想が多い。できれば企業と地域住民の交流を奨励する施策も検討してほしい。予算をつけてほしいわけではない。基本方針の「働きやすいまち」などのところに、そのような意味の表現を盛り込んでいただければ嬉しい。

あわせて、(1)の「各関係団体の責務や役割は以下のとおりです」の表現は殺風景だと思う。見る人がどのように重要なかを認識できるような表現にしていきたい。

委員長 第5章についてコメントをいただいたので、事務局から第5章、第6章について説明をいただいた後にご質問をいただければと思う。

事務局 説明
「第5章 計画推進の役割と計画の進捗管理」
「第6章 推進施策の成果指標と目標値」

委員長 全体を通じてでも結構だが、お気づきの点があればお願いします。

委員 先ほどから説明の中で、総合計画が出てきていると思う。総合計画10年間の中で中小企業振興計画がある。整合性を図っていくことが記載されている。総合計画では人口に関する目標が明記されていたと思うが、整合性を取っていくのであれば中小企業振興に関して、どう携わっていくのかが必要であると思う。それが生産年齢人口であったり従事者数であったりすると思う。7ページにも事業所数や従業者数の推移が記載されているが、それに対して射水市がどういう目標を持っているのか。将来的にどうしていきたいのか、計画の柱となるところで明確になった方が、その後続く施策にしても実際にどう具体化していくのかが見えてくると思った。その上でのKPIかと思った。人に関する目標値を定め、それに対してどう事業所数を増やしていくかが肝になるかと感じた。

委員長 今回様々なアンケートの結果を踏まえて素案を作っていたが、第1章、第2章の分析も考慮しなければならない大きなポイントだと思う。外的環境の変化を踏まえて何をどうしていくのかの展望があればよいという意見である。実質的にはされていると思うが、それが伝わる形で工夫していただきたい。

委員 今回例えば35ページ「未来につながるまち」の中で射水市の高等教育機関を積極的にという話の中で、我々もぜひ関わっていきたくて考えている。前回会議でも説明したが、DX教育研究センターをこれからどのように活用していくかが課題だと考えている。一般的にDXの推進といっても、どんな恩恵があるのかは分かっているようでなかなか分からない。GXとなるとなおさらだ。自分の身にどのような恩恵があるのか、企業にアピールしていく必要があると思っている。理解を深める意味で、研究センターではいろいろなイベントをしており、積極的な活用をお願いしたいと考えている。裾野をどんどん広げる意味では、アソシエイト会員という無料会員制度もある。こういったものを積極的に広げる中で、DXの浸透を進めていけばよいのではないか。具体的な中身は市と話をすれば良いと思っている。

委員長 DXは抽象的になってしまうが、具体的な進め方が必要だと思う。大学は課題を欲しがっている。課題を解決するために技術、知識を使おうというところで連携が進むため、そのあたりをうまく抽出していただけるような方向で進めていただきたい。

委員 この計画を作る過程で、統計調査、企業ヒアリング、事業所の状況調査を行った。それをすべて踏まえて、振興計画を作ったと言え、やり方としては極めて合理的で宙に浮いた話ではないということは十分理解している。出てくる施策も必要なものがたくさん出てくる。しかし心配するのは、これほどたくさんできるのかという点だ。第2次の振興計画があつての3次であり、やめたものもあるだろう。そうしないと新規がこれほど載せられないと思う。継続と新規もこれほどたくさんあると、部や課だけではできないだろうと感じる。他の部局に移管する

必要もある。我々委員は監視、管理をするが、実行に関しては例えば商工会議所や各種団体など、連携という言葉があるくらいなので、ぜひ移管して、自分たちを身軽にし、もっと必要なものは何かヒアリングを進めていかないといけないと感じる。

DXの話などは5年前にはなかったとのことだから、第3次計画に入る前に、これが必要だというものが出来てもおかしくなかった。例えば来年何が起きるか分からず、急に異常な物価高などがあればそれが最優先になることもありうることで、継続事業はどこかへ移管という話も出てくると思う。そのような観点をもって、何が必要なかをぜひ選んでいただきたいのが希望だ。

事務局 貴重な意見を参考にしたい。本当に全てが大切なもので、まず5年間かけてやっていきたい。委員の意見のとおりに、商工会議所や青年会議所、県立大学などプロに任せられるところは任せ、取り組んでいくものとして書いている。皆様の力をお借りしたい。

委員長 しっかりヒアリングをされた上での計画であり、大切なものが並べられていると感じる。その中で行政としてこの方向に向かい、誰と何を行い目指すところは何なのか、これだけでも大変だと思うが、そこを取り組んでいただきたい。取り組んで初めてわかる難しさや、思いと異なっていた点などはしっかりブラッシュアップしていただきたい。多くの方が思っていることだと思う。

しっかりやっていただけるということは言葉として受け止めるが、やり方についてはやはり十分に考えていただきたいと思う。この後次をどうするのか、次に向けての打ち手が考えられる振興計画となればよいと思う。検証の中に出てくるのか、総合計画との兼ね合いの中に出てくるのかは分からないが、そういったところも考えていただくとありがたい。

委員 先ほど意見の出た、本当にこんなにたくさんできるのかということについて。私は中小企業支援センターと名前がついておるため、なんでもいろいろやっている。今回の具体的なことでも細かいことはたくさんあるが、連携のお願いである。

富山県よろず支援拠点という、各都道府県に1か所、各専門家、プロの方が18人ほど入れ替わりで在籍しており、相談を無料で受けているセンターがある。モデルとなった相談所が静岡県にある。~~うちも連携している。~~一緒に何か協力していければと考えている。

また、事業承継についても行っている。コーディネーターも延べ10名程で行っている。国の方でも年間予算が増え、いろんな相談件数もたくさん行っている。まだまだ隠れた地域ニーズはあると思い、その掘り起こしが大変である。事業承継ネットワークで掘り起こして、きっかけが見つかればマネージャーが訪問して深掘りすることもできるので、ぜひ協力させていただければと思う。

委員長

関係機関がたくさん取組をされており、連携をしていただくと成果が上がると思うので、ぜひよろしく願います。時間になったので、本日はここまでとする。本日いただいた様々なご意見は一旦事務局で預かり、修正させていただいてパブリックコメントに付すとさせていただきたい。議事は以上である。進行を事務局にお返しする。

(4) その他

事務局

将来像、具体的な取組内容については、事務局の意見と委員長、副委員長の意見をすり合わせながら進めていきたい。案という形ではあるが、市議会の12月定例会に素案を提出し、議員からもご意見を頂戴したいと考えている。そののちパブリックコメントを実施するという形になる。次回の会議は1月下旬をめどに予定している。その時にパブリックコメントを踏まえた最終案をお示ししたいと考えているのでよろしく願います。日時、会場はあらためて連絡を差し上げる。

(5) 閉会

事務局

以上をもって第2回検討委員会を閉じさせていただく。本日はありがとうございました。